

## 1 これまでの開催経過及び今後の審議会の進め方

- 第3回から第4回にかけて、**料金水準**に関する議論を予定。

30 年 度	第1回（5月7日）	横浜市水道局の概要及び課題への取組	現状と 課題
	第2回（8月3日）	現行料金体系が抱える課題	
	第3回（本日）	本市にふさわしい更新事業費の水準と耐震化のペース	料金 水準
	第4回（1月下旬）	将来の財源調達の方向性、業務改革とサービス向上への取組	
	第5回	本市にふさわしい料金体系の方向性（加入金の在り方検討を含む）	料金 体系
31 年 度	第6回	本市にふさわしい料金体系の方向性（料金改定を行う場合の条件や配慮すべき事項）	
	第7回	答申案の審議	取り まとめ
	第8回	答申案の取りまとめ	
		答申	

## 2 第1回、第2回審議会でいただいた主なご意見

### 料金体系の在り方、基本料金による固定費の回収割合

- 元々は公衆衛生の向上のため、家事用の負担を抑える用途別料金体系を採用し、普及率を高める必要があった。今はその目的は達成しており、もう一度、受益者負担の在り方を考える必要がある。
- 今までのように固定費を基本料金ではなく、従量料金の増加で吸収する方法では、今後の使用水量減少の変化には対応できず、使用者の不満も高まるのではないか。
- 水道料金は使用水量に応じて料金をいただいているが、実際は水道水を供給するための施設の維持管理や更新に必要な経費が約9割を占めており、そのために料金をいただいていることをもっとPRすべき。
- 長期的な視点で施設の更新や耐震化を進めなければならないという前提に立ち、これからの水道料金の在るべき姿について検討しなければならない。市民に分かりやすく論理展開して、見える化をしなければならない。
- 必ずしも少量使用者だけが生活に困窮している訳ではないのではないか。多量使用者でも、子どもが多いひとり親世帯などは、福祉的な配慮が必要ではないか。

## 2 第1回、第2回審議会 でいただいた主なご意見

### 基本水量の在り方

- 基本水量は公衆衛生の観点から設けられたが、その役目は概ね終えている。
- 節水努力に対する評価について考えていかなければならない。

### 逦増度の在り方

- 普通の経済理論に従えば、多く購入する程安くなるが、水道の逦増度は逆の考え方を採用している。
- 節水のための設備投資をしている多量使用者は多いのではないか。本市の逦増度が高いため、ある程度投資したとしても、十分採算が取れているのではないか。
- 横浜市では良い水をふんだんに使えることを周知し、水道の使用を促すような、競争力のある料金体系に転換すべき時代に入っているのではないか。

## 3 第1回、第2回審議会 でいただいた主なご質問

	質問要旨	議論の予定時期
第1回	口径別料金体系は多くの都市が採用しているが、水道事業の経費を賄うのに最適なのか。	第5回もしくは第6回
	施設整備について、これまでどのように事業運営を行ってきたか。	第3回
	工事手法による工事費の縮減について、どのような工夫を行っているか。	第3回
	給水管の耐震補強も重要だが、どのような取組を行っているか。	第3回
	横浜市の管路更新率や耐震化はどのくらいで、現状の管路の更新率だと今後どうなるのか。	第3回
第2回	単身世帯の割合が増加しているが、年齢等による属性の違いはどのように水需要に影響するか。	第4回
	横浜市では、家計に占める水道料金の割合はどのくらいか。また、電気代やガス代と比較するとどうか。	第4回以降
	日本の水道料金は他国と比べるとどのような水準にあるのか。	第4回以降